

読者へのメッセージ

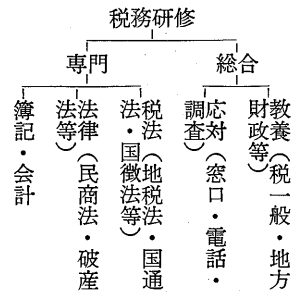
税務職員にもっと研修を

緑区役所 鷲巢研二

市の仕事として職員の間で、恐らく最も人気がないと思われるのは、税の徴収——とりわけ滞納処分を行うところの収納（係）であろう。それは、一所懸命やればやるほど相手方（滞納者等）との軋轢が強まるのみならず、「徴収率」という数字の上下によって各方面からの批判にさらされるからでもある。その上、納期限や消滅時効といった「時」との闘いでもある点で、まさに何かに追いまくられながら休むことなく行われる「自転車操業」的な仕事なのである。しかも、税法は極めて体系的・技術的な構造をもっているから、いきおい大学等で法律を学んだ者でさえ敬遠しがちである。しかるにこのような税法を拠り所に仕事をしている税務職員の待遇、資質はどうか？

税務研修は「端緒」としてしか位置づけられておらず、体系の習得、事例（個別）問題の検討、情報交換等は全て職員個人まかせである。学習というものが究極的（あるいは基本的）には、個人の努力にかかるとして、個人の理解できるとして、体系の基礎であるとか、問題解決のノウ・ハウなどについては、集中的（少なくとも一カ月）かつ継続的（例えば、初級・中級・上級などの階層別）に行うべきだと思いが、いかがであるろうか。滞納整理には、錯綜した法律・事実関係の内在することも多いので、基礎的な素養のないままに手をつけると、いたずらに問題を紛糾させる危険性がある。予算の問題、講師の問題、他部門とのバランスの問題などいろいろ困難はあろうと思うが、税務の現場にいる一職員として、是非とも研修の充実を望むものである。参考まで

に、私の考えている研修の概略を記しておく。



自己啓発

総務局 重野敏子

ソフト社会において、個人の再教育、自己啓発の必要性は言うまでもない。また、社会を、組織を活性化させるにあたって斬新なアイデアが必要であることも。世の中は非凡な人ばかりでない。普通の人が普通でないアイデアを出すのは並たいていでない。ちょっとした恣意がビッグアイデアになることもあるが、長期に渡って考え悩んだ結果生まれるものも多いのでは。アイデアの創出は、究極的には個人の問題であろうが、それが生まれやすい職場環境でなくてはなるまい。高度な目標が与

えられたり、不可能と思われる課題に挑戦する機会があると同じ時に、生まれた優れたアイデアを守り、それを組織の中の政策に積極的に取り入れる気風、柔軟性があること。そして、人事配置が組織の動きと不協和音を奏でないこと。これらなくしては、行政という仕事に対する人の意欲を、自己啓発を盛りあげ

ることは困難ではあるまいか。このような意味で、職場や組織のリーダーに求められるもの、その役割は計り知れない。一人ではなかなか持続が難しいことでも、仲間がいると意外に続きやすい。相互に刺激され個人では不可能なことも可能となり、さらにグループ内の人という魅力が加わるからだ。

本市にある様々な自主研究グループには市民をも巻き込んで活動しているところもある。異職人種のそれぞれの見地から、

感性のぶつかりあひからの相乗効果が期待できるのでは。自己啓発は、あくまでもこのめまぐるしいほどのイノベーシヨンの時代で、また人生八〇年という中で、より人生をうまく生きるために欠かせないものと思う。テーマそのものが、即仕事に結びつかなくても。

新聞、テレビ、通信教育、カルチャースクール、あらゆる機会をとらえ自分なりに新鮮な刺激を求めたいかがなものか。職員研修所も大いに活用していただけたらと願ってやまない。

「調査季報」は職員が自由に意見を発表し討論する行政研究誌です。「行政研究」への投稿も歓迎します。二〇〇字詰五〇枚以内。都市科学研究室まで（電話六七一一二〇二九）。

この「読者のページ」へもご投稿ください。市政、都市問題、自治体問題等、題材は自由。七〇〇字以内。

それでは「大都市」横浜は？

見渡せば そごうたかシマ

ありにけり

ハマのとまやの 秋の夕暮

読み人知らず ▲長尾▼